

ベビーバス使用中は、少しの間でも子供から離れないで！

～ベビーバスの安全な使用に関する調査を実施しました～

東京消防庁管内では、ベビーバス使用中の事故により、平成 24 年からの 5 年間に、3 歳以下の乳幼児 45 人が救急搬送されています。

そこで、東京都では、ベビーバスの使用方法や使用中の事故に関するアンケート調査と、ベビーバスに対する試験、表示調査を実施しました。

その結果を踏まえ、消費者へのアドバイスや事業者団体への要望等を行います。



調査結果

1. 家庭でのベビーバス使用経験は 80.7%。子供が溺れた・溺れそうになった経験は 8.6%【報告書 p.6,16】

2. 溺れやけがをした・しそうになった経験者が考える事故の原因は「入浴介助に不慣れだった」が 41.3%で最多

溺れた・溺れそうになった経験の 6 割は手を添えているときに発生【報告書 p.19,29,47】

3. 少しの間でも、子供を一人で、または他の子供だけを付き添わせてベビーバスに入浴させた経験は 10.6%

入浴介助者が離れている間に溺れた・溺れそうになった事例あり。溺れた、溺れそうになったとき、37.5%で声や水音はせず。子供のずり落ちを防ぐ「股当て」(右上図)の有無で溺れた・溺れそうになった経験に差はなし。一時的でもベビーバス使用中に子供から離れるのは危険【報告書 p.14,18,20,24】

4. ベビーバスをお風呂の蓋の上に乗せると、転落する危険がある

普段お風呂の蓋の上でベビーバスを使っている人は 7.8% (右図)。アンケート調査で転落を 3 件確認。蓋がたわむなどして転落する危険がある。【報告書 p.13,28,46,48】



再現動画はこちら

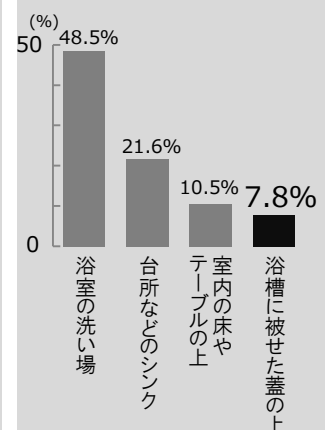
5. 表示に問題のある商品も。強度などはおおむね良好

表示では、取扱い上の注意の表示がないなど、家庭用品品質表示法に抵触するおそれのある商品があったほか、溺水危険に触れない、文字が小さいなどの課題が見つかった。設計・製造に関する試験で本調査の基準を満たさなかった商品は、12 検体中 1 検体のみ。【報告書 p.36～43】



「股当て」つきベビーバスの一例。円内が「股当て」部分。

ベビーバスの使用場所



調査方法

- アンケートは、都内在住で、1 歳から 6 歳までの子供と同居する男女 1,000 人にインターネットで調査
- 試験、表示内容調査は、12 検体に対し、米国のベビーバス規格の試験に一部準拠するなど実施

詳しくはこちらをご覧ください。

東京くらしWEB



<https://www.shouhiseikatu.metro.tokyo.jp>

消費生活に関する様々な情報を SNS で発信しています。

Twitter

東京都消費生活行政

Facebook

東京都消費生活

【裏面へ続く】

【問合せ先】

消費生活部生活安全課
商品安全担当

電話 03-5388-3082

消費者へのアドバイス

- 母親学級・両親学級を受講するなどし、あらかじめベビーバスの安全な利用方法を学びましょう。
- ベビーバス使用中は子供から離れず、常に大人が見守ってください。やむを得ず離れなくてはならない場合は、子供をベビーバスから出しましょう。子供は深さ数センチの水でも溺れることがあります。またベビーバスの「股当て」は溺れを防止するためのものではありません。
- ベビーバスを、お風呂の蓋の上で使用しないでください。転落のおそれがあります。

要望：ベビーバス製造関連事業者団体等に、表示内容の検討などの対策を推進するよう要望する。

情報提供：国、都内区市町村母子保健担当課、関係学会、出版事業者団体等へ本調査結果を情報提供する。